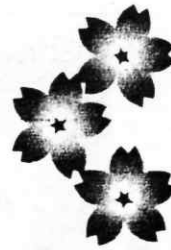


白岡ニュータウン自治会だより 3月お花見号

平成15年3月27日
白岡ニュータウン自治会発行
会長 岡田 光 旦



挨拶と花と緑の
明るいニュータウン

【平成14年度年間行事】

平成14年度年間行事を報告します。

自治会長 岡田 光 旦



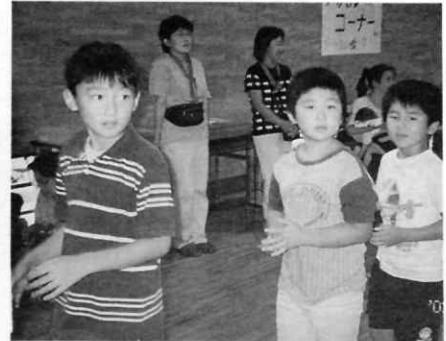
【第14回通常総会 5/2】



【第1回ゴミ・ゼロ 5/26】



【女性班長会 6/15】



【子供お楽しみ会 8/24】



【納涼盆踊り大会 8/25】



【総合防災訓練 10/20】



【第2回ゴミ・ゼロ 11/9】



【ふれあい音楽会 11/9】



【青空市&餅つき大会 12/8】



【歳末警戒 12/27・28・29】
……次ページへ続く……



【確定申告無料相談会 2/15】



【子供お楽しみ会 2/22】



【新・旧班長引継ぎ会 3/15】

『子供お楽しみ会を終えて』

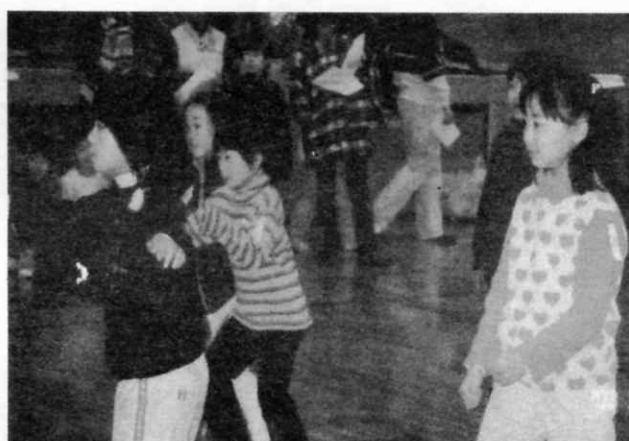
子供部会理事 甘利 健一

2003年2月22日、今年度自治会最後のイベントである子供部会によるお楽しみ会をおこないました。当初200人位の予定でしたが、参加者は半分となり少し寂しい会となりました。

毎回ですが岡田会長をはじめ飯塚、大西両副会長、岡本理事その他沢山の応援理事班長の方々と半日、子供達と一緒に遊ぶことができました。私たちの時代と今の子供達と断絶はありません。40年前にタイムスリップしてピュアな気持ちが甦って来ました。私なりの感想ですが、子供部会の規模をもっと広げて子供達も参加させ、大人と一緒に運営していく子供会にしていくべきではないでしょうか。

私の子供の頃は、町内会に子供会があり、そこで夏祭り秋の運動会ソフトボール大会等幼児から中学生迄、大人も一緒に参加して執り行っていました。地区別対抗リレーに無理やり出され綺麗なお姉さんからトップでバトンを貰い途中転んでビリで次走者にバトンを渡したほろ苦く懐かしい出来事を思い出しました。そんな事ふと、思い出しながら子供部会の班長さん達と反省会をしました。皆さんからそれぞれ意見を出していただき、共に活動した1年の月日を振り返り笑いの中に終わりました。

班長の皆さん、ご協力有難うございました。皆さんのお陰で1年間楽しく活動できました。また、その辺でお会いできたら声掛け合いたいですね。なお、“子供お楽しみ会に参加して”と題して3名の班長の方に一筆書いて頂きました。



【子供部会班長 中村直樹】

庭先ではふきのとうが芽を出し、すっかり春の訪れを感じています。早朝の少し肌寒い頃合いから受付が開始され、例年に比べての一層の冷え込みが影響したのか、残念なことに予定人数の約半数ほどしか集まりませんでした。しかし、いざ予定通りの開始を迎えると、ジャンケンゲームには大人の方も奮って参加、ドッジボールでは未就学児の数が少なかったこともあり、代わりに大人の方々が外野を担当なさるなど、見ているだけで微笑みが浮びました。中高学年もトーナメント戦ということで、大人顔負けの気迫で自然と規律の取れた試合が展開され、審判の方もその熱意に十分応えていました。またビンゴゲームでは思ったより早く最初のビンゴが決まり、子供たちは眼前の山積みとなっている景品を前に期待に胸をふくらませ



ている様子でした。小さな男の子が黄色い傘を片手に「僕これにしようかな」、また女の子が「お姉ちゃんにもって行こうかな」などという心温まる会話も垣間見られ、この世知辛い世の中、ここだけは無縁と思わせてくれる光景でした。

景品の買出しでは、最近の子供はどういうのを喜ぶだろう？いざ店内に入るとすっかり童心にかえり時間の経つのも忘れて夢中になってしまいました。でもふと昔、村の神社境内で大人たちの見守る中、お遊戯会が行われ高学年と中学年が低学年の面倒を見、お遊戯会の衣装は近所に裁縫の得意なおばさんが白いワンピースを作ってくれ初めての手づくりの衣装に胸弾ませたことを思い出しました。いつの日か、この町でも子ども会は子供たちの手で運営される日がくれば、子供たちが大人になったときの想いは違うものになるのでは？最後に寒い中、早朝から応援に駆けつけてくださった皆さんにお礼を申し上げます。

【子供部会班長 石井 清弘】

1. 観念的には、地域コミュニティの重要性、必要性については十分理解しているつもりですが、実際の地域活動に対して、サイレントマジョリティーの一人として、自治会の行事に出席はさせてもらいますが、積極的に参加はしないという楽な行動様式をとってきていました。ところが、この度、昨年春から、輪番制で班長の仕事を担当することになりましたが、日頃の消極的な態度のために、自治会の組織、運営、行事等についてはほとんど何も知らず、本人が慌てたのは勿論のこと、一緒に行動に参画した人たちに大きな迷惑を掛けてしまいました。この場を借りてお詫びします。



2. 班長としての大きな仕事は、班会議開催と自治会各部会のメンバーとなり自治会行事へ参加することの二つです。私は、小学生の娘がいるので、軽い気持ちで子供部会を希望しましたが、子供部会には、夏と冬の子供お楽しみ会という二つの大きな行事があり、夏は家内が、冬は私が、参加することにしました。どちらの場合も子供部会長を中心にして、何回も会合を持って、打ち合わせをし、準備を整え、本番を迎えるのです。本当に自治会を運営していくのは大変なことだと思いました。

3. 当日は、あいにく寒い日でしたが、子供達はものともせず、体育館狭しと走ったり、ボールを投げたりしていました。日頃、自分の娘だけしか見ていないと、まだまだ子供だと考えて、頭から半人前扱いをしてしまいがちですが、今回のように大勢の子供達を集団として観察する機会を得ると、子供なりに段々と社会性や規範を獲得しつつあることが理解でき、子供達に対する認識が変わったような感じがします。

4. このように輪番制とは言え、班長になったことで、私も地域のコミュニティの一員として自治会の活動にわずかでも参画し、いろいろと経験することができ、良い機会に恵まれました。

【子供部会班長 高橋 孝枝】

子供部会として最後のイベントである「子供お楽しみ会」の当日は今にも雨が降りそうなどんより曇った寒い日でした。そんな天気の影響もあり子供達の出足が悪く、予定していた人数より少ないスタートとなりました。しかし、集まった子供達はみんな元気で、会場の体育館は明るい声に満ち、寒さを忘れるばかりのお楽しみ会となりました。

最初のゲームは「じゃんけんゲーム」です。1人5回分のじゃんけん用に渡されたカラフルな色紙を握り締め、約100人近く集まった子供達のうち1人だけの優勝者に用意された賞品を気にしながらの楽しいゲームでした。メインイベントの「ドッチボール」は高学年・低学年に別れてそれぞれの優勝を競いました。ボールに当たり残念な表情。ボールを当てて得意な表情、ただひたすら逃げ回るのが必死な表情と個性豊かなゲームでした。又未就学児童のゲームは、ドッチボールというよりもボール遊びの様子でしたが、かわいい楽しいゲームでした。



最後はビンゴゲーム。賞品を前に台紙の当たり番号をめくる表情も真剣、当選者が自由に選べる賞品は大きいのがいいか？小さいのがいいか？選ぶ表情も真剣でした。

子供達の楽しそうに遊ぶ表情を見て、私は「子供お楽しみ会」を企画できて満足でした。

最後に提案ですが、私たちが子供のころの子供会は、高学年の児童が企画や指導の中心で運営されていました。今後の子供部会もイベントの企画・実施にあたって子供自身が中心となって参加できるものにしてはと考えました。大人はそれをフォローする立場に徹したものにすれば、子供の視点からの発想が生まれ、子供の自立にも役立つと思います。

<私の視点> 『祖母の思い出と野菜作り』

筒井康雄

今年の冬は予想では暖冬とのことでしたが、実際はとても寒い日が続き、厳冬でありました。ここに来て日一日と春へと季節は移り変っている今日この頃です。

早いもので私がこのニュータウンに越して来てから10年経ちました。友人の紹介で近所に畑を借りて家庭菜園を始めてから9年になります。野菜作りを行っている色々なことを経験させられております。子供の頃、母の実家は農家でしたので、祖母に従って畑によく遊びに行きました。田舎でしたので、野菜は自給自足の生活です。祖母の作る野菜料理は素朴な塩、自家製の味噌、醤油だけの簡単な味付けによるものでしたが、戦時中の物資のない生活を送っていた当時としては、とてもおいしかった記憶が脳裏に残っています。

その様な遊びの中で、祖母の畑作業を見て育った経験が現在の私の野菜作りに影響を与えているような気がします。昔は化学肥料など殆どなく、家畜として飼っていた「牛、馬」のフンを元にして作った元肥、又、食用にと飼っていた「うさぎ、ニワトリ、羊」等の床敷物ワラの発酵したものが主として肥料として用いていました。現在でいう有機栽培です。とても良く野菜が出来ているし、祖母の作った料理は美味かったと思ひ出されます。

さて、50年もの前のこの思い出が私の野菜作りの基になっていると思います。先ずは、土作りですが、野菜の種を蒔く前に土の中に入れるものがあります。秋になるとニュータウンも紅葉の季節を迎え、木々が色付きとても安住の気持ちになりますころ、落ち葉を公園等で拾い集め、畑の隅に深く掘った穴の中に水を掛けながら入れます。しばらくしてから、家の残飯、野菜切れ、魚の骨等で発酵させたボカシ入り（発酵のための菌）の自家製の元肥を落ち葉と混ぜ合わせ、畑の隅で堆肥になる様にと越冬させます。今年もそうですが、水が温むこの季節になると、さあ～春野菜作りの到来です。厳冬の間、畑は秋に作った大根、ホウレン草、白菜等、殆ど食べ尽くし、木枯らし吹くまま乾燥し荒れ放題になっています。この荒れた畑を掘り起こすことから春の野菜作りの始まりです。

掘り起こしてから化成石灰、落ち葉、生ゴミで作った自称堆肥？とさらに牛フン又は鶏フン等を混ぜ合わせて野菜床を作ります。先日も会社を休んで土作りを行いましたので、春野菜の種を蒔くばかりになっております。今、畑では秋に蒔き、植付けた玉ねぎとかき菜がすくすくと寒風にも負けず育っています。かき菜は今が旬です。とてもやわらかく、癖がなく茹でておしだしにしたり、味噌汁の具としても大変おいしいです。その隣で春野菜の王であるジャガ芋、春菊、ホウレン草、などを植えようと思います。この記事が出る頃には、畑では新芽がそろそろ出る頃だと思います。無農薬、有機栽培ですので虫も好み、葉には穴が少なからず出来ていますが、それでも味はとても良く、美味しく食べています。私の野菜作りは、祖母が行っていた動作を見よう、見まねで、自然と覚えたような気がしております。始めてから9年ですが1回として満点になったことはありませんが、私としては「土いじり、野菜の成長、収穫そして食する」このサイクルを身を持って経験することが出来ることによって満足、充実、達成感をそれぞれ得ており、楽しんでおります。みなさん作ってみてはいかがでしょうか！！

【点 描】

★★★★★UDと知る権利★★★★★

甲斐庸夫

新白岡駅前のマンションに住民が待ちに待ったケーキ屋が開店した。ニュータウンを訪れた訪問客は今まで駅前で土産を買うことができなかった。駅に着いて「そんなバカな」となる。この話は来客の多い河村町会議員から聞いた話だ。駅前開発をなんとかしたいと言う河村さんに同感である。

ユニバーサルデザイン（UD）についてのビジネスフォーラムを2月の下旬に新宿の京王プラザで開催した。「全ての年齢や能力の人々が、可能な限り最大限に使いやすいよう製品や環境をデザインすること」と定義されているこの理念は企業だけでなく自治体にとっても重要なテーマになっている。静岡県、熊本県、岩手県などはUDの考え方を政策として取りいれている。昨年は静岡で初めてのUD全国大会が開催された。今年の第2回大会は1月に埼玉で開催された。埼玉県総合政策部にUD担当がいて、活動はまだ知られていないが、今後本格的に取り組むということだ。

高齢化が進む中であらゆる人にやさしい環境やシステム作りが必要になってきた。駅の階段のエスカレーター設置、バスなど公共の乗り物の低床化など行政の果たす役割は大きい。UDという言葉は馴染みがまだまだうすい。合併問題で地方行政が注目されている。合併は住民の意志や声は反映されずに行政の判断で粛々と進められている。

しかし、我々住民は身近な問題解決や、少しでも暮らしやすい町にするためにも行政への関心を持つ事が非常に大事である。町の環境や高齢者に対する施策、UDの考え方はどうなのか、我々が収めた税金がどう使われているか、住民は知る権利があるとともに、もっと知ろうとすべきである。



『身の安全と財産は自分で守る時代』

防犯・防災・交通担当副会長 飯塚 牧三

1. 不審車出没に注意を！！

2月下旬の夜間、新白岡駅周辺で帰宅途中の女性が不審車に後をつけ回されたとの情報が寄せられました。久喜警察署に夜間パトロールの強化要請をしましたが夜の遅い時間帯は大変危険です。特に女性の一人歩きは危険なことから、家族に迎えを頼む。駅からは寄り道をしないで帰宅する等、家族共有の防衛対策をお願いします。

警察からも、この時期は犯罪、特に窃盗・強盗事件が多発するので注意を呼びかけて欲しいとの要請がありました。自治会ニュースでも皆さんにお知らせしていますが、不審車を見かけたら110番通報をして下さいとのことです。

その際、車体のナンバー、色、車種などできるだけ正確に伝えてくださいとのこと。近い所をパトロールしている警察官が急行することになっています。

不幸にして被害に遭ったら本人または家族の方が、すぐに警察に被害届けを出して下さいとのことです。第二、第三の被害者を出さないためにもお願いします。

2. 宅急便を装った女子暴行事件に注意を！！

犯人は玄関のチャイムを鳴らし、「宅急便です」等と声をかけてドアを明けさせ、玄関に入り込み、玄関内で室内の様子を見て一人であることを確認し「凶器を持っている。おとなしくしろ。」等と言って暴行をする。といった事件が2月下旬にさいたま市、岩槻市内で発生しているから注意をして欲しいとの情報を久喜警察署から得ました。

3. 現代社会を生き抜くために！！

犯罪事件を知らせても、自分とは関係ないもの、自分とはかけ離れた出来事のように思っている人が多いように見受けられますが、かつて日本の「安全神話」は急変しつつあります。自らの危険は自ら守るといった防衛技術を身につける時代がやってきているにも関わらず、防犯意識が、現在の危機的な状況に追いついていないのが現実です。

自治会としても最重点事項として取り組んでいますが限度があります。誰もが犯罪の被害者となる可能性をもって暮らしているという認識をもって下さい。

4. 訪問リフォームにはご用心を！！

「地震が起きたら倒壊しますよ」「介護保険で改修できますよ」・・・こんな甘い言葉で自宅の修理を無理やり勧める訪問販売が増えており、国民生活センターには多くの相談が寄せられているとのことです。建設業者は、都道府県知事か大臣の許可が必要になりますが、500万円未満の工事は建設業の許可がなくてもできるため、技術の乏しい業者が訪問しリフォームをこの金額よりも安い値段で契約させる方法です。

特に、最近「地震」と「介護保険」を使った勧誘が多く「介護保険が使えるからお風呂のリフォームを」と勧めながら、実際は介護保険の対象工事ではなかった等といったトラブルが多く発生しています。

そこで注意することは①その場での契約はしない。②複数の業者から見積りを取る。③介護保険を伴う住宅改修については、白岡町「高齢福祉課」に確認することです。

※相談は下記の所へ

・白岡町役場 高齢福祉課 0480-92-1111 内線172へ

・消費生活支援センター春日部 048-734-0999

☆受付時間：9：30～12：00 13：00～16：00

・業者の情報を得る方法

建設業許可者から提出された工事経歴や財務諸表などの閲覧もできます。また、監督処分簿により過去の行政処分の有無も閲覧できます。

☆埼玉県・・・建設業課 048-830-5176

閲覧受付時間（水曜日を除く平日）9：00～11：00 13：00～16：00

……………契約は慎重に行ってください……………

《コラム》

“この町・この街” ……高岩公園のクリスタル……

新白岡 3-54-7 児玉みさを

新白岡の住民となり10年目を迎えた。我が家の狭い庭にうぐいす、尾長鳥、すずめ等が枝から枝へ花の蜜を吸いにやってくる。食事をしながらのバードウォッチングが何ともいえず至福の時を過ごす。春になると遊歩道にはポッポッ春本番を告げる白いこぶしの花、さつきの花に目を奪われる。街を歩いてみると家々のまわりには見事に花々が咲き誇っている、メイン通りはけやきの緑が美しい。晩秋になると高岩公園の樹木があざやかなからし色に染まる。落ち葉の上をスニーカーで歩くとカサカサとした音が心にしみて足裏からほのぼのとした気持ちに包まれてくる。西の空の残照が消えかかる頃、白鷺が7~8羽連



なってねぐらの遊水地に戻ってくる。沈む太陽のダークオレンジとグレイッシュされた白鷺の白が憂いを感じる。強い寒気が通過した冬の朝の高岩公園は空気が冷たくキューンと身がしまる、芝生は一面霜に覆われ、朝の陽光がやさしい光を放ち、感動に満ちる。芝生に付いた霜がこんなにも美しいとは10年目にして初めての発見だ。今年は例年になく氷点下の日が多かったせいなのだろうか。霜の結晶は樹木の間から緩やかな光を受けて赤、橙、黄、緑、青、紫とキラキラと輝やいている。まるで枯れた芝生はダイヤモンドをいっぱいに散りばめたジュウタンに変貌する。私の住むニュータウンは四季折々の自然を満喫でき、花と緑に囲まれた街。朝には躍動感を、夕にはやすらぎをいただいている。一日中家の中でゴロゴロして気分がすっきりしない時、街並みを散歩すると不思議にキリリとなり爽快になる。これは整然とした街並みと環境から受け取るメッセージに違いない。この素晴らしい自然と街を一人一人の手で大切にしていきたい。

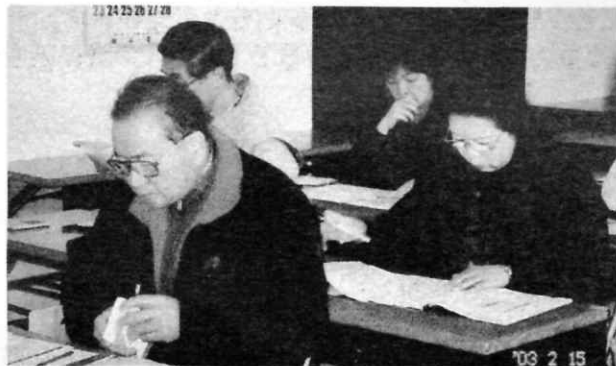
『確定申告無料相談会』を開催して

企画部理事 入江 満

2月17日から所得税確定申告受付開始に先立ち、今年も恒例の自治会主催の申告無料相談会が、2月15日(土)2丁目集会所に於て、住民の希望者40名を対象に10時~15時の間、2回に分けて1丁目在住の税理士河村修司氏(元・自治会長、現・白岡町議会議員)、河村氏のご次男で税理士河村芳明氏の2名のボランティア講師により実施されました。

参加者は、河村講師が事前に用意されていた申告の手引き、申告書を受領し、それに基づき手引書の書き方欄の記入方法を順序を追って項目ごとに丁寧に説明を受け、源泉徴収票、各種証明書等を見ながら、電卓を片手にその都度質問を繰り返しながら各欄の記入を行い、申告書の所要欄に転記をしていきました。転記が終わったところで、更にチェックを受けて間違い、計算ミスの手直しをして提出されました。内容が簡易なもの、複雑なもの、申告に比較的慣れている方、初めての方等、個人差が結構あり、講師も常に誰かの質問に応じておられるという状況でした。午前、午後ともに予定時間を超過しての質疑応答、丁寧な指導を受けての、盛況で充実した相談会を開催出来ました。

因みに参加者から提出された申告書は、河村講師が土曜、日曜に自宅で更に点検され、翌17日(月曜日)に纏めて春日部税務署へ提出頂いたとのことです。主催者として厚くお礼を申し上げます。



犬の糞は必ず飼い主が処理しましょう!!!

※自治会役員として裏方でいろいろとご苦労されている監事・会計理事に一筆お願いしました。…広報部

☆☆☆監査役として自治会活動に思う☆☆☆

監事理事 横山 久磨尾

昨年「白岡ニュータウン自治会だより」新年号に「監査役として」の拙文のせかせて頂きましたので、今回はご辞退申しあげたところではありますが、たっのご要請により、各種行事等に係わる裏方等について一言述べさせていただきます。

当自治会の年間行事の中でメイン行事としては、春の総会から始まり、夏の盆踊り大会、暮の青空市・餅つき大会が最大のイベントではなからうか。自治会全組織をあげて、そしてメンバーである自治会員の大勢の参加者を得ての催しである。

私は、監事理事として、通常業務はないものであり、したがって、部活動は文化部に所属し、特に盆踊り大会には、企画・立案・運営・管理等にたずさわってきた。これらの行事は、常に「何もなく」何も無いように仕上げて成功裡に終了することがあたりまえである。失敗すれば担当理事以下スタッフは、長期間に亘る目には見えない裏方の流汗淋漓の努力は水泡に期してしまう。

現在は、各種行事ともマニュアル化されて、容易に事前に確認でき理解しやすい体制にはなっているが、現実・現状は、マニュアルだけではミスなく間違いのない活動は期待出来ないし無理ではなからうか。それは何と言っても経験して初めて効率よく、ミスなく熟すテクニック等を生み出されるものであるからである。

したがって、初めて参加をする班長さん方及び新理事の方々は、未経験のため大変ご苦労・心労等と戸惑いが多々あるものです。よって、理事の方は、最低2年は継続して欲しいと年度当初の新理事就任の際に会長からお願いをしているところである。

「継続は宝」「継続は力なり」と言われる所以である。「何もなく」何も無いようにすることこそ裏方の仕事の真髄ではなからうか。そのためには、与えられた業務を誠心誠意に励みグループ内のコミュニケーションと行事の進展に伴う二重三重のチェック体制が肝要である。

当自治会は不滅である。安全で安心して住める街づくりのため一步一步前進するため裏方の仕事を全うして参りたい所存であります。



♪♪♪♪♪雑 感♪♪♪♪♪

会計理事 町田 好男

水温む、啓蟄、ひなまつり、東風……………そして卒業。これは三月の季語である。

卒業といえば、地域の白岡東小学校、白岡高校の窓辺から「蛍の光」「仰げば尊し」が聴かれるのも間近い。春の訪れと共に子供達が新しい未知の世界へと学び舎から力強く羽ばたいてゆく。弥生、三月は巣立ち、旅立ちの季節である。

戻りたくとも過ぎ去った熱き青春の日々はあまりにも遠すぎる。

私も、約束の二年間が無事に過ぎ、自治会活動を卒業する。役員や事務局をはじめ多くの方々に支えられて、何とか完走できた。改めて感謝の意を表したい。自治会活動を通して新しく知り合った方々も多く、これからの人生に大きな財産を得た思いだ。幾く久しい交誼を請い願う。

一方、白岡ニュータウンも創立から十五年が経ち、創生期を卒業しようとしている。この間、盆踊り、子供お楽しみ会、ふれあい音楽会、もちつき大会等々の諸行事が住む人々の生活の中にしっかり根付いて来ている。先達の功に心から敬意を表する。

これからはCATV事業の自主運営、二段植栽に関わる緑化のあり方や、見直しなど、“花と緑”を標榜する自治会への住民の期待は益々増大し、社会的責任も重くなってくる。

又、市町村合併によって住民と行政の距離が遠くなり、さらに行政とのパイプが細くなるのではと心配されている今、私達住民の声を行政に反映させるためのパイプ役も自治会に果せられた大きな役割となりつつある。

幸い、四月に大巾に入れ替わる自治会スタッフが充実されるという。この街に住む3500人余の人々が、この街に住んでよかった、安全で快適な、いつまでもこの街に住み続けたいと思える様な街づくりに一層の活躍を期待したい。

日毎に強くなる日溜りの中で、そんな思いに耽りながら、ふと、庭先に目をやると遅咲きの水仙の蕾が黄色を濃くしていた。

(平成15年2月26日、記す)



※各部の班長を代表して各一名の方に“自治会班長を終えて”と題して一筆書いて頂きました。

掲載は総会資料「役員・班長役割分担一覧表」の順序で記載させて頂きました。(自治会広報部)

『総務部での一年』

【総務部班長 谷田部 好信】

順番で街区の班長が回って来た。我々の街区は1期の1次つまり最古参なので、15番地の私が当番ということは、このニュータウンに引っ越してきて15年経ったということだ。入居当時は販売センターも仮設でヤオコーも仮店舗、駅から我が家が直接見えたことを思い出す。

自治会では総務を担当することになり、仕事初めである総会での出席者の多さに、改めて時が経ち、この街が成長してきたことを実感した。しかし総会に参加した人は、多分役員と班長が中心だろうから、ここに暮らす人々は一体何人くらいになっているのだろうか。

人が増えるということは、そこに発生する問題も様変わりしてくるわけで、今年最も印象深かったのは、残念ながら「防犯」であった。

緊急の班長会議や各街区での班会を行い、被害に遭われた方の体験談を伝えたり、自分たちにできる防衛策を話し合ったりして、少なからぬ一体感を感じてこの問題に対処してきた。これは今後も切実な問題であるが、自治会が継続的な取組みをしていくことで、網の目を小さくしていけると信じている。

盆踊り大会・防災訓練・青空市 etc と催し物が開催される度に、それぞれの役割の中でお手伝いをしてきた。その中で感じたことは、参加してもらった時のうれしさであった。新興住宅街の自治会としてなかなか越えられない壁はあるものの、皆さんの継続への努力のおかげで良い街造りが出来てきていると思う。

春の気配を感じながら愛犬とこの街を散歩するのは、私のとても好きなことだ。変わって欲しいものと、このままであってもらいたいものそれぞれあるが、より愛着のもてる街になってもらいたい。



『一年間班長を務めて思うこと』

【広報部班長 松本 俊哉】

文才のない私が広報担当!? 衝撃を受けた昨年の班長引き継ぎ会から早一年、なんとか務め終えようとしています。主に自治会だより発行のお手伝いでしたが、ほんの短い文章を書きあげるのにも何時間も費やし、いかに日々思考せずに過ごしているかを痛感させられました。担当した号だけでこの有様なので、毎号に携わっている理事さんや、何度も原稿を寄せて下さる方々には本当に頭が下がります。住民同士のコミュニケーションをはかり、さらに住みよい街にしていくために、自治会だよりや2チャンネル放映の活用はより重要になっていくと思います。

広報部の活動以外には他の部のお手伝いとして、盆おどりや子供お楽しみ会などにも参加しましたが、そこでのうれしい発見は子供たちの目がとても生き生きとしていたことでした。学級崩壊やキレやすい子供、などという言葉が最近よく耳にしますが、あの目を見る限り白岡の子供達は大丈夫との思いを強くしました。

過ぎてみれば、あっという間の一年でしたが、班長を経験したことで自治会の活動により一層の親しみを持てたし、新しい発見や自分自身を省みるきっかけにもなり、とても有意義だったと思います。お世話になりありがとうございました。



『文化部の仕事をふりかえって』

【文化部班長 太刀岡 理佳】

ニュータウンに越してきて、半年もしないうちに回ってきた班長でした。何もわからぬまま務めてきましたが、早いもので1年たってしまいました。振り返ってみると、文化部の方たちと一緒にした仕事はとても大変でしたが楽しく思い出されます。

はじめに、文化部の担当になったときは、はっきりいって「務まるのだろうか」と心配でした。主に盆踊りを企画することでしたが、前年度のお祭りに参加していないので、どのようなものか解らなかつたからです。

5月より、頻りに会議が行なわれ、いろいろなことが話し合われました。出店、福引の商品は何にするかなど。それが決まると、今度はみんなで買出し。会議をしながら、スーパーボールをすくう紙を枠に張ったり、ヨーヨーのゴムを作ったりしたこともありました。めまぐるしく準備が進んでいき、残すところは、8月24日の盆踊り。とっていたら、前日の大雨。緊急会議が開かれ、順延に決定。急遽、順延のお知らせを作り、雨の中手分けして全家庭にポスティング。つくづく企画する側の大変



さを感じました。

8月25日当日。夫が用事で出かけていたので、1歳と4歳の子連れでのお手伝い。何をしても足手まといになるばかりで、お手伝いはほとんど出来ませんでした。

ニュータウンの盆踊りを初めて迎えるにあたり、文化部だったことは、とてもいい経験だったと思います。そして、盛大な盆踊りを続けているニュータウンは素晴らしいと思いました。これからは、盆踊りを子供と一緒に楽しませてもらうと思っています。

『早朝の掃除』

『衛生部班長 三浦 一郎』

この一年、衛生部員としていろいろな行事がありました。岡田理事・折本理事を中心にチームワーク良く、なんとか活動してこられました。実際に衛生部の仕事に携わって、毎年、みなさんがこんなに大変な事をやっていたのかというのが実感です。やはり、なんでも実際に経験してみないとわからないものです。みなさんは、ご存知でしょうか？早朝、公園の掃除、落ち葉拾いをされているご夫婦がいることを、朝、出勤時に感心な人がいるものだと思っていたら、岡田理事夫婦ではありませんか、自治会の理事だけでも大変なボランティアの仕事なのに、みなさんがまだ寝ている朝暗いうちからの掃除には、頭が下がる思いがしました。世の中、いろいろなことで表彰される方がいますが、なんとかかこういう縁の下の力持ちの人が、白岡町から表彰される方法は無いものでしょうか？



こういう人が衛生部の理事をやっているニュータウンは、いつまでもきれいな街であることでしょう。岡田理事のもとで、一年間いっしょに活動できたことを心から感謝しております。

＜企画部の1年を省みて：みんなの声＞

企画部班長 福富 悦子

15年目にして初の班長、全ての行事が初体験であり新鮮で2回と経験することはないであろうと楽しく参加させて頂きました。行事を重ねる毎に親しくなり良い経験をさせて頂いたと思います。この町に住む誇りを感じました。(遠藤)

入居して15年たち予定通り15番目の班長の仕事は企画部に所属。ふれ合いコンサート、そしてフン害、税務相談のお手伝いが主な仕事でした。仕事や家事、介護の時間をやりくりしてなんとか、自治会の行事に参加、協力できたように思います。(大嶋)



自治会企画部の一員として、1年間各行事に参加して考えさせられました事は、高齢化が進みこの辺で各行事の見直しが必要かと思いました。それと犬猫のペットに関する苦情が多く飼い主が横のつながりを持って、美しい白岡の街並みをどうしたら持続出来るか、一般の住民と仲良く考えてゆく事が望まれます。(近藤)

15年目にして自治会活動をさせて頂きました。行事の時の用意とかたづけは大変でしたが役員さんの連帯で楽しくできました。今年の役員さんご苦労様です。頑張ってください。(清水)

ふれあい音楽会が近づく頃には、親交も深まって部会も楽しくなってきました。みんなの知恵と工夫をだしあった立て看板作りは、あつという間にできあがり、チームワークの良さはお見事。企画部のみなさんの温かさに心がなごんだ1年でした。(福富)

『一年を振り返って』

【防犯・防災部班長 吉崎 富佐子】

昨年、4月より班長をして一年間、防災・防犯の仕事に携わり、今そろそろ終わりを迎えようとしています。班長がめぐってきた時点で、平日、仕事を持っている身ですので、出来ない事や、無理な事もでてくるでしょうからその時は、やれる事をやっといこうと勝手に考えておりました。

認識を新たになんて思い、5月の総会に出ました。やはり様々な意見が、でておりました防犯の件に関しては6月の顔合わせから始まり、10月の最大イベント防災訓練を迎えました。準備中要領が分からず閉口しました。コピーをとると言われても何の為のコピーなのか、どうしてとるのか理解できなかったものでした。前日から準備に出て、とにかく訳が分からないまま何だか用意はできました。天気予報によりますと、訓練当日はお天気が悪く雨の予報がでておりました。苦労して準備したのですから、何とか出来る事を祈っておりました。当日



朝、雨はおちていませんでした。私の担当は炊き出しと豚汁、これは他の班長さんのお蔭でスムーズに良く出来たと思っています。お水かお湯を注いで蒸らすだけの五目ご飯・炊いた物と大して見劣りがしなくてとても感心しました。とにかく一生懸命に皆の力で、事故もなく無事に終了することができまして本当に良かったです。実際に災害があっては困りますが、その時は訓練の成果が生きてくれると思っています。万が一は無い様に祈るばかりです。年末のパトロールは出られずご迷惑をおかけ致しました。その他、協力しなければいけない事もありましたが出られず大変申し訳なく思います。一年で、全体の流れがようやく分かりました。ちょっぴり仕事の理解、役員さん方の並々ならぬご苦勞など知らなかった事も知ることができましたし、他の班長さんとも顔見知りになりました。このことは収穫でした。少し自治会の行事が多いように思いました。もう少し絞りこんでも良いのでは、という気も致しました。負担が多いと次の役員さんのなり手が無いのでは、と懸念もしております。一年間、有難うございました。

『一年間子供部会の仕事に携わって』

【子供部会理事 久田見 卓】

ニュータウンもそれ相応の落ち着きを見せている。街が落ち着くと共に高齢層も増えているのだろう。そのせいか、ひっそりと静まり返っている、と感じることすらある。どんな新しい街でも、人が定着するという事は、いずれ高齢化地域になるという不安を抱えることに結びつく。一方、子供たちはあまり外遊びをしなくなっているようだ。首都圏の小4から中2までの子供のうち半数近くが塾に通い、大半が自分の部屋とTVゲームを持つという調査があった。彼らは自分の部屋（カプセル）にこそ居場所と安らぎを見出しており。多様な価値観と変化に機敏に対応しながらも、その実、どろどろとした人間関係には距離を置く。そんな世渡り上手な子供達を、調査は“アメンボキッズ”と名付けていたが、水上をスイスイ滑るアメンボ君は、この上もなくか細くて頼りない。



肉体的、精神的なたくましさはどんどんと削ぎ落ちていく。子供達もまた見えなくなっている。だが消えた訳でもないのだ。

そんな子供達に、「ニュータウンの特色を表すものは？」と問えばどのようなものになるのだろう。「ニュータウンは、見た目は美しく道路や街は整備されていますが、歴史や文化がありません。」彼らにとってニュータウンは故郷となるばかりであり、彼ら自身が関わり創っていくべき大事な舞台でもある。

もともとニュータウンは核家族向きであり、地縁も薄い。それは仕方ない事実だ。だが、しがらみに縛られず創造していける面白さがある。それに、周囲の自然や環境に恵まれているためか、まだまだ白岡ニュータウンの子供達はたくましい。ならば自分達で故郷（地縁）を作るよう、子供達自身で発案し、運営に参加できる仕組みづくりを、幸いなことにこれまでは自治会が努力され積重ねた成果からすれば、そろそろ始められる時期に来ているのではないか。この一年間、行事を行う（与える）たびに感じ続けてきたことである。

【自治会費とCATV管理費の一括引き落としについて】

日頃より自治会活動へご理解いただきましてありがとうございます。

さて、自治会費と昨年より自治会による自主運営に変更されたCATV設備に関する管理費を下記の通り一括引き落としさせていただきますので宜しくお願いします。

(記)

1. 金額	自治会費	年額 6,000 円
	CATV管理費	年額 6,000 円
	合計	年額 12,000 円
2. 銀行振替日	平成15年4月21日(月)	

※手続きの混乱を避けるため振替銀行を4月21日まで変更しないで下さい。

自治会事務局

『地域福祉の推進をめざして』

民生・児童委員 高瀬 幸子

初めて白岡ニュータウンに民生・児童委員が任命されたのは平成元年12月1日全国一斉に改選された時でした。1・2丁目を河村尤子さん、3丁目を私が担当しました。前任者の引継ぎもなく地域の交流も薄い頃で、暗中模索の日々でした。現在は1丁目を吉井順子さん、2丁目を岡田珠子さん、3丁目学園通りを境として西側を福地紀枝さん、東側を微力ながら私が担当し、15年目になりました。この度、民生委員の役割をもっと知っていただきたいと、活動の主なるものをひろい出し箇条書きにしてみました。

*民生委員とは

民生委員は「民生委員法」に基づいて厚生労働大臣が委嘱している民間の奉仕者で、社会福祉活動をするための協力機関です。任期は3年で現在は平成13年12月1日に全国一斉に選ばれました。

*児童委員とは

児童委員は「児童福祉法」に基づいて民生委員が兼ねることになっております。

*民生・児童委員の主なる活動

(1) 社会調査のはたらき

白岡町では毎年6月に担当の民生委員が高齢者や母子家庭、父子家庭を訪問して実態や福祉需要を把握するため、各家庭でいろいろと尋ねております。

(2) 情報提供のはたらき

平成12年に介護保険制度が導入され福祉サービスが大きく変わりました。施設入所、在宅介護のヘルプサービス等利用者のニーズに対応できるよう情報提供等の援助に心がけております。

(3) 連絡通報のはたらき

利用者の期待に沿えるよう関係行政機関、施設、団体等に連絡し、必要な対応を促すパイプの役割を果たしております。

(4) 小学校、中学校との連絡協議会の実施

必要に応じ白岡東小学校、篠津中学校の先生方と協議会をもち児童生徒の健全育成に努めています。

(5) 民協定例会の研修

毎月1回の定例会で独居老人の問題や児童虐待の問題等多岐に涉って福祉問題の研修を受けます。

(6) 社会福祉協議会とのかかわり

社会福祉協議会は地域の住民やボランティア、福祉・保健等の関係者、行政機関の協力を得て福祉活動する民間の機関です。共同募金活動や福祉事業に積極的に協力しております。

以上主なる活動について述べましたが、社会福祉が大きく進展する中で、その動きを正しくとらえ、私なりに微力を尽くしていきたいと思っております。

『社協白岡東支部 視察研修会に参加して』

民生・児童委員 吉井 順子

社協白岡東支部の今年度事業の一つとして、2月4日視察研修会がありました。今回は、昨年出来たばかりの2つの町内老人福祉施設を見学させて頂きました。

初めは上野田にある介護老人保健施設（病状が安定した老人に、家庭への復帰を目的として、看護、リハビリテーションを中心とした医療ケアやサービスを提供する施設）「ぼっかぼか」。ここは定員95床で、うち40床は痴呆専門（2階部分）になっています。

理事長自慢の門のない開かれた入口を入り、ゆったりしたホールで概要を説明していただいた後、施設内をご案内いただきました。昨年十月開設したばかりの新しい施設ということもありますが、この施設ならではのこだわりが随所にみられました。リネン室の中まで説明していただきましたが、布おむつを使っていることには驚かされました。

お伺いしたのが10時頃だったので、廊下のテーブルでは、入所者の皆さんがお茶を飲んでいました。2階の痴呆専門棟では、ホールで体操をしている所で、そこを通りすぎ、会議室では質疑応答の後、千駄野にある「いなほの里」に向かいました。こちらは特別養護老人ホーム（常時介護が必要な老人で、在宅での介護が困難な人に、介護、療養上の世話を行う施設）で、定員は80人（4人室が20室）ショートステイが12人です。広い玄関コールから中庭をとり囲む様に広い廊下をはさんで居室が配置されており、とても静かで清潔な印象を受けました。

両施設とも、入所をお待ちの方が多数おられ、需要には答えられていないのが現状の様です。町内にはもう一ヶ所、上野田にケアハウス「おおり」があります。



《悠友会コーナー》

“新白岡悠友会新年会”

新白岡悠友会理事 石野 尋雄

ファンタスティックなぼたん雪に包まれた、セピア色の新年会……。1月23日〔カラオケ・ルーム“つばさ”〕には、42名の悠友会の皆さんが、優雅で華やかに着飾って集まりました。新年会の冒頭で……皆さんが目を閉じたところで、40才若返ると云う呪文？ を、司会者がうやうやしく唱えました。

《ジュゲムジュゲム…ゴコウノスリキレ……》しずかに眼を明けると……もうそこは、夢のような若々しい、不思議な仲間の世界に変わっていました。ビールにお酒、ウーロン茶にジュースで乾杯!!! 石狩鍋・さくさくの串揚げ・中とろのお寿司……ウーンこれは文句無しに……美味ーい。

新春にふさわしい詩を、詩吟グループの面々が、厳粛に幽玄に吟じました。カラオケ仲間（いえいえ飛び入り仲間の方が俄然盛り上がり）は、『♪♪身丈に合わない恋ですが～たぎる心はこぼめない～♪♪』と、しみじみと〈青春〉を歌い上げていました。

いよいよ宴もたけなわ……「私、28才よ！若いつてぜったい、人生が薔薇色ね！」「あーら、ごめんなさい！私、今年成人式だったんです。着物姿の証拠写真を、持ってくれば良かったかしら？」こんな冗談っぽい会話が、会場の中で……これが、本当の心のご馳走ですね。

この熱気では、外の雪ももう解け始めているのではないのでしょうか？ ここで、クイズを一つ……『雪が解けたら、何になりますか？』『はい！雪が解けたら、春になりませう！』

白岡東小学校『総合的な学習』に参加して

新白岡悠友会 会長 赤津 允勇

新年を明けてまもなく、白岡東小学校より新しい教育課程の「総合的な学習」で四年生全体が「こんなことができるようになりたい」という思いを、地域の人々から学んで行く学習をすることになったので、と協力の依頼が悠友会にまいりました。こちらでも出来ることはやろうと云うことで、会員18名と高岩地区の方数名が合同でそれぞれが得意の分野で参加しました。

この学習は新しい学習で、学校の先生方も進行は「なりゆきのなほこびになる」とのこと。当方の教える参加者も、何をどうするか等々不安を抱きながら始まりました。

学習の内容にふれますと、日時は1月21日・28日・2月4日の3日間が各2時間、2月28日が発表会1時間の四日間の授業です。生徒達は自分等だけで行う学習が他に10日間がとられています。学習科目は生徒の希望によって決まります。学習科目は次の通りです。

*編物（8名）*ビーズ（6名）*フェルト（4名）*生け花（1名）*茶道（1名）*料理（8名）
*油絵（4名）*囲碁将棋（16名）*ジオラマ（10名）*工作（6名）*パソコン（3名）
*野球（7名）*テニス（7名）*サッカー（2名）*卓球（5名）

このように多岐の科目にわたり、又人員もばらばらでしたが、なんとかやりくりで凌ぎました。この中で生け花、茶道は各一名の生徒でしたが、専門家の先生が夫々に一名づつあたられたので一番充実したものとなったと思います。科目の中でジオラマ（これはご存知ですか？）は指導する人がいなくて困りました。この名前すら知りませんでした。

「感想」学習が始まるまで、いまだきの子供は俺達の頃と違って……だろな等と多くの方が思っていたと思います。しかし、一緒に話をしながらやっている内に、生徒等は明るく、素直で、熱心で、礼儀もまずと、感心するやら、嬉しく、これなら大人になっても将来は期待をもてると思った次第です。一方、教える側も教えることによって、自分自身も大変勉強になったと云う声が多くありました。

2月28日には授業の成果の報告と感謝の日でした。私は囲碁を教えたのですが、その感謝状を戴きました。感謝状を原文のまま載せますので、この学習と生徒の気質などなどご想像いただければと思います。

原文（非常にしっかりした上手な字できちんと書いてあります。）

<赤津さんへ>

ぼくは、赤津さんたちに囲碁を教えてもらって「よかったなあ」と思いました。赤津さんたちの指どう碁や対局の時の注意は、とてもわかりやすかったので囲碁がとても楽しくなっていました。赤津さんたちのおかげで「囲碁のプロ将士になってもいいかもしれないなあ」と思ったことが何回もありました。いまでは、弟とたまに打ったりしています。これも赤津さんたちのおかげです。本当に1月21日・28日・2月4日、にぼくたち囲碁グループのために来てくれて、ありがとうございました。

見城 大樹



《若人コーナー》

【自分の時間】

福地 光平

高校一年生も終盤になってきた最近、この一年がほんとい間だったと感じる。春に入学して、夏には部活に明け暮れ、秋にはマラソン、冬にはスキーに行ったりと、行事が多かったため、学校での生活はすごく楽しかった。しかし、朝早く起きて学校に行き、部活をして夜帰ってくるという生活を繰り返しているうちに、自分の時間を持てずに、何かの事に対して、じっくり考えたりすることができなかった。忙しいからしょうがないと言えばしょうがないのだが、もう一年が終ろうとしているのに、何か達成感のようなものがないのは、自分の時間を持てずに、ただ時の流れるままに生活していたからだと思う。

では、毎日の日々を楽しむには、どうしたら良いかと考えると、第二の趣味のようなものを作って、毎日自分の時間を活用し続けて、後々、その趣味が日々の成果という形で感じることができたら、その日々を振り返った時に、充実感や達成感のようなものを感じれると思う。趣味といっても、それは、自分にとって足りないと思う事や、これをできるようにしたい事とか何でもいいと思う。それが例え、大きな事であったとしても、毎日毎日続ければ、必ずできるようになるし、長い時間かけて達成した時の喜びは自分にとって特別なものになると思う。

これからの時間をもっと充実したものにするために僕は、とりあえず毎日、自分の時間を作ろうと思う。それが15分でも、5分でもいいから作り、そして自分のやりたい事を見つけて、達成したい。『時は金なり』。後々悔いが残らぬよう、全ての瞬間を大切にしたい。

また、これを書いたことにより、色々考える事ができたので良かった。

《趣味のコーナー》

♪ ♪ ♪ ♪ 『ハンドベルコンサート』 開いて思うこと ♪ ♪ ♪ ♪

ティンカーベル 清水 由美子

9年前、コンサートと呼べるかどうか、センタープラザでの小さな発表会が始まりました。それから一年一年試行錯誤の中で、自分達でできる範囲の手づくりのコンサートをさせて頂いて参りました。白岡東小学校のご協力で体育館の舞台での年には緊張感と、先生方への感謝の気持ちとで無我夢中だったのを思い出します。

ここ4年間はコミュニティセンターで毎年定期的に行ける様になり、今年で10年目を迎える事ができました。振り返れば、本当にあっという間の年月です。天使のハーモニーと称される程、美しいハンドベルの音色ですが私達にとっては、ひたすら打つだけで精一杯でした。それが回を重ねる度に少しずつ余裕を持つてできるようになり、初回から聞きに来て下さっている方に「継続は力ね！」とおっしゃって頂いた時には、思わず涙が出てしまいました。6年程前からは、白岡東小学校のメロディークラブの子供達との演奏会がさらに私達に充実感を与えてくれ、貴重な心のオアシスとなりました。そして何よりも、この年になって舞台上に上がりスポットライトを浴びることが、一個人として自分の存在が認められる唯一の体験になっていることに、喜びと張り合いを感じています。メンバーの間では「少し若返ったかしら？」なあんで言ったりもしています。そうは言っても毎回コンサート当日の午前中までの練習にあがき、心臓がとび出す程の緊張。「まちがったらどうしよう、あ〜心配!!!」でも、これをはねのけ終わった後の達成感、それがあからやっという感じがします。そして皆様の温かくやさしい励ましや、「素晴らしかったわあ!」というお誉めの言葉に「また頑張ろう!」という力が湧いてきます。これからも『一音一心』を心がけ、謙虚な気持ちでメンバー達と支えあって心温まるハーモニーを創っていきたくて思っております。今後共、ご支援、ご協力をお願いできましたら幸いです。

<ティンカーベルのあゆみ>

*94年2月結成

*97年6月日本ハンドベル連盟加入

*毎年12月定期コンサート

*訪問コンサート 白岡太陽の里・すずのき病院・埼玉医療センター・杉の子幼稚園・蓮田太陽の里など



《子供作品コーナー》

【バレエのはっぴょうかい】

1年生 淵上まゆみ

わたしはバレエをやっています。いろいろなおどりを、いままでおぼえました。そのなかで、ことしのおどりがいちばんむずかしいです。だからブタイでおどるのはきんちょうします。わたしはじょうずにバレエをおどりたいです。わたしは、バレエへいくのが、たのしみです。なぜかというとおどりがじょうずになってともだちもいるからです。わたしは、ただたのしいだけじゃありません。おどりがうまくなるとうれしいからです。わたしは、いつもバレエがちゃんとできるとはかぎりません。たまにまちがえてしまいます。わたしは、まちがえないでちゃんといつでもできるといいです。

【楽しかったドッチボール大会】

3年生 新井里菜

2月22日ドッチボール大会がありました。さいしょは、ドッチボールのたいせんチーム分けをしました。わたしは黄色チームでした。

次は、ジャンケンゲームをして、さいしょに私は負けてしまいました。そして、何回もしたけどあまり勝ちませんでした。

次は、ドッチボールゲームで、さっきチーム分けしたチームで私は黄色だったので黄色のはたの所にいきました。そして、ちがうチームとチームがたたかって、その次の次でたたかったけど負けてしまいました。そして、二回せんで、またまけてしまいました。すこしかなしかったです。でも、男の子の投げたボールを取れてうれしかったけど、すこしいたかったです。

次はビンゴゲームでリーチなのに時間がかかってしまって、ビンゴになれませんでした。とっても、楽しかったので来年もまた行きたいです。

【インフルエンザにかかって……】

4年生 鷹野純也

2月の初め、ぼくは、40度近くの熱を出しました。

まっすぐ歩いているのに、ふらふらしたり、食べ物のあじが変わったりしました。

医院に行くと、インフルエンザB型と言われました。

インフルエンザには、A型、B型、C型と3種類あります。A型は世界で大流行したタイプです。B型は、これまでに大流行したことがありません。C型は、A型やB型とちがい、軽くすむことが多いそうです。

3年前に、インフルエンザにかかった時は、学校で流行していました。クラスでは、12人ぐらい休んでいました。ぼくは、一番最後にかかりました。

今回は、一番最初にかかってしまいました。インフルエンザは、ウイルスで感せんします。予ぼうするには、うがいや手洗いをし、よくねむり、栄養をきちんと取ることが大事だと思います。

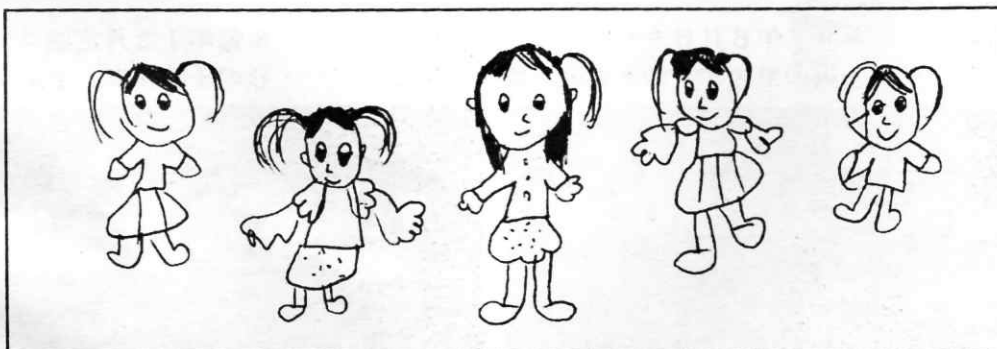
【卒業】

6年生 永井紀固

私は、3月に白岡町立東小学校を卒業します。今振り返ると、長いようで短かった6年間でした。学校生活では様々な思い出が多い中、一番記憶に残るのが、校内持久走大会の思い出です。毎年冬が近づき、その話題が出るだけで、スタート前のことを思うと、緊張で胸はドキドキ、「やだなー、持久走なんて無くなればいいのに・・・」と思っていました。去年の10月、今年で最後なのだから悔いの残らないように頑張ろうと心に決め、同じクラスの友達と本番のコースをほとんど毎日、約2ヶ月間走りました。その結果、4位になることができました。苦手だった持久走でしたが、努力した結果が最後に報われ満足しています。次に思い出深いのが、交通安全鼓笛パレードで、指揮者になり行進したことです。指揮者に決まったときは、「目立つし、かっこいい」としか思いませんでしたが、いざ練習が始まってみると、曲のリズムやタイミングに合わせたホイッスルの合図と指揮棒操作が出来なければ、演奏がばらばらになり、パレードは台無しとなってしまいます。また、2kmも指揮棒を振り続ける体力が必要なこともあり大変でしたが、何とかきつい練習をこなし、最後までやり遂げることができました。今、卒業するにあたり、6年間の思い出は尽きません。お世話になった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。3月24日卒業式で白岡東小学校ともお別れですが、篠津中学校に入っても6年間学んだことを活かして頑張りたいと思います。

【バレエのれんしゅう】

1年生 淵上まゆみ



【おともだち】幼稚園年中 黒須恵梨奈



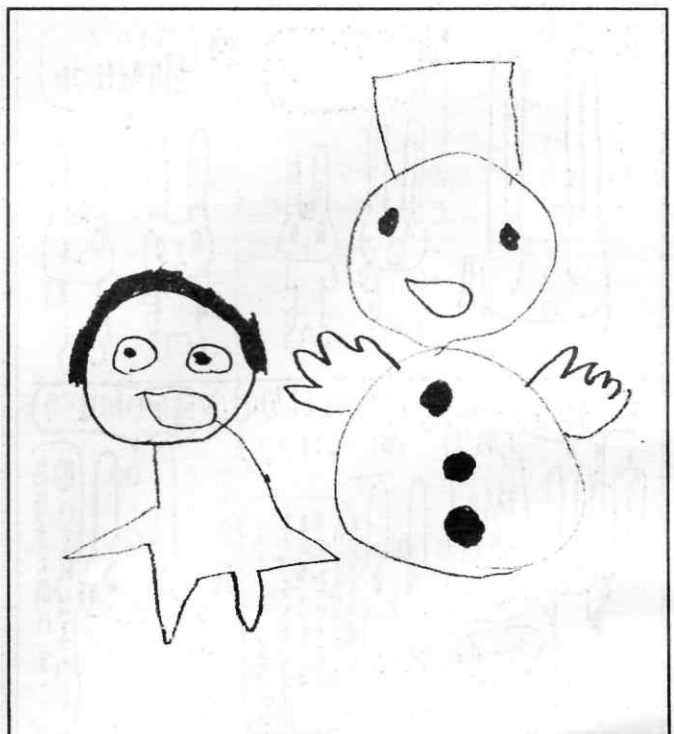
【なかよしねこさん】 東浦愛美



【ゴジラ】幼稚園年長 なぐもじゅんいち



なぐもじゅんいち



“我が故郷”

永田 信夫

東京は新宿区四谷に住んでいた私の家族ですが、大空襲で家が焼けてしまい移った先が調布でした。京王線は上石原（現西調布）の駅、そのすぐ北側で生まれた私ですが、記憶の中には数える程の出来事が断片として残っているだけです。幼稚園へ通う電車のドアに靴がはさまれてしまい泣きだしてしまったり、多摩川に花火を見に行った帰りにはいつも父の背中で眠ってしまった事などで、近所で一緒に遊んだ友達の名前は残念ながら全く思い出せません。その後、父の仕事の関係で田無（現西東京市）へ引越して来ました。

当時の東京都下は三多摩（北多摩、南多摩、西多摩）地区と言われ、今のニュータウンの住所と同様に、それぞれに郡が付いた住所でした。そんな武蔵野の台地は関東ローム層から成り、どこを掘っても出てくる粘土質の赤土には子供心にも何か不思議な気がしてなりません。小学校時代は、家の近くの麦畑を切開いて新青梅街道が造られていた関係で、工事現場でよく遊びました。下水道の管を道路の下に埋める為に深く掘り続けられた溝の横壁は地層の有様を私に教えてくれました。工事が休みの日曜日には立入禁止を無視し近所の友と懐中電燈を片手に下水道管の中で何時間も過ごしていたものでした。その遊び場も今は通行量の多い幅の広い道路になっています。青梅街道と新青梅街道が最も接近する場所に位置する総持寺は、祭りや市の思い出だけでなく、その境内に設置された街頭テレビのプロレス中継というイベントを通して私の心の中に残っています。

西東京市になった現在でも広大な敷地の東京大学農学部農場が有り自然豊かな地域ですが、昔のように雑木林が点在することは無くなりました。季節に応じ昆虫採集をしたり、栗拾いをしたり、蜂の巣を取りに行ったりする事は出来なくなってしまったのでしょうか。中学校の裏側に突然現われた野球場は、当時社会人チームとして全国的に有名な（都市対抗で優勝したことも有る）熊谷組の専用球場でした。硬式野球との間近な出逢いを経験し、グラウンドの広さや、実際の内野の守備位置、そして何よりも打球の音に驚き興奮しました。その野球部も今は廃部となってしまう、すばらしい歴史も幕を閉じてしまったようです。後楽園球場へ応援しに行った事も有る私にとっては寂しい限りです。

故郷と呼べる地域は、整理され、開発され、今住んでいるニュータウン近郊よりも発展してしまいましたが、心の中で思い出す時は、何十年も前の昔のままの都下北多摩郡田無町の四季の姿です。

『ニュータウン自治会 班長引継会』を開催しました。

総務部理事 飛 沢 猛

3月15日（土）の午後1時から、ニュータウン自治会72班の内、66班のH15年度新班長さんに出席いただき 班長引継会を開催しました。開催の趣旨は概ね次ぎの4点となります。

（1）班長の仕事内容確認 （2）自治会各部会の編成 （3）自治会役員候補者の選出 （4）今年度からの引継

（1）班長の仕事内容の確認

回覧物の取り扱い、行事等への積極的な参画、班内の転出・転入の連絡等が主な仕事となりますが、特に、岡田会長、森田副会長からは、地域コミュニケーションの基礎となる「班会議」を積極的に開催していただきたいとの要請が有りました。

（2）自治会各部会の編成

班長さんは、企画、広報、総務、子供、文化、衛生、防犯の各部会に所属して、色々な行事に参画します。今年も、予め所属希望部会を申し出ただき、部会を編成させていただきました。但し、全てのご希望には沿えませんでした。

（3）自治会役員候補者の選出

H15年度自治会役員候補者の抽選を行いました。2chなどで候補者募集を行って参りましたが、役員会の定数20名にたいして、当日までに申し出の有った来年度の役員候補者は11名であり、不足9名の候補者を来年度班長さんの中から選出させていただきました。自治会役員を、ニュータウン内から均等に選出するため、ニュータウンを、1/2丁目、3丁目、グランテラスの3地域にわけ、戸数比率から8名、10名、2名となるように調整しております。

（4）今年度からの引継

新班長さん、新しく編成された各部会は、早速活動を開始しました。部会毎の簡単なミーティングの後、今年度の班長さんも加わって引継、懇親を深めました。

H14年度の班長さん、ご苦勞様でした。H15年度の新班長さん、これから1年間よろしくお願ひします。



「新・旧班長引継ぎ会」について

1-28-11 【広報部班長 宮城 淳】

班長引継ぎ会は、72班長のうち66班長出席のもと開催された。会長挨拶では、班会議によるコミュニケーションの重要性が再度強調された。次期役員候補者の紹介、班長へのお願いなどその他議題は、順調に進められた。20名の役員中9名が未定であったが、希望者はなく、結局例年通り班長の中からくじ引きで選定された。くじに外れた班長さんたちは、きっと密かに安堵されたことでしょう。自治会長の交代があり、早速、前期と後期に2回班長会開催のアナウンスがあり、気配り、新しいフレーバーが感じられた。

その後、現(旧)班長さん達も来場して懇親会が行われた。どこかの班会議で、班長・役員引き継ぎ会での飲食提供が多い、とのご意見があった模様で、比較的簡素なパーティーであった。旧班長として参加してみて、新班長の皆様の意気込み、新しい息吹が感じられた。



《第15回通常総会》のお知らせ

第15回通常総会を下記の通り開催します。
自治会員の皆様には多数ご参加頂きたく宜しくお願いします。

(記)

1. 期 日 平成15年4月29日(祝日) AM9時半~12時(予定)
2. 場 所 白岡東小学校 体育館
3. 総会資料 4月中旬に事前に配布します。ご参照頂き当日には必ず持参願います。
4. 備 考 会場へはスリッパまたは上履きを持参下さい。

※自治会活動は皆さんのものです。活発で実の有る総会としましょう。

自治会総務部

《編集後記》

*広報部全員に“一年間広報部の仕事に携わって”と題して書いていただきました。松本班長には各部を代表しての欄に書いて頂きました。……………広報部理事 岡本

【1-28-11 班長 宮城 淳】

広報部に割り当てられた時になって、自治会だよりを初めて一通り読んでみました。内容が多岐にわたり、盛り沢山であることを知りました。編集会議に出席して、自分で3回も作文しなければならない上に、子供部会の班長さんにも原稿を依頼しなければならない、など気が重くなった。知らない漢字などは、パソコンが教えてくれたものの、自分の拙文は赤面のものであった。幸いペアになった子供部会の班長さんに恵まれ、毎回原稿がもらえ、うれしい限りでした。

【2-15-12 班長 早川 卓良】

義父と同居する為にこの街に転居して早、11年。7年前に義父を見送り、コンビニもない不便な暮らしに不平を言っていた子供達も、今では盆暮に孫を連れて帰省するようになりました。

荒涼としていた駅前もそれらしく整い、郵便局、銀行、美容院、交番も出来、毎日の生活に欠かせない条件が揃い見違える程ですが……………。

この街の暮らしに慣れたこの時期、自治会の広報部員として改めて街の構造、様子を確認する機会を得、増々街全体がより身近になりました。

なにげなく目を通していた自治会だより、BGMがわりの2ch、その陰にはこれ迄の広報部員のご苦労があることをあらためて感じ、又、自治会だよりに投稿するにあたり、適切な言葉を探しながら日本語の美しさ、奥深さを思い出し、何時も電話やメールで済ませている兄嫁や娘にも、たまには手紙を書くのもいいかなと思ったりしています。私事になりますが、法事、息子の婚礼、娘の出産もあり、広報部員として充分仕事を果たすことが出来ませんでした、ニュータウンの住民であることを実感した一年でした。

【2-26-15 班長 佐藤 肇】

昨年三月に、花粉症のマスクを付けて、班長会の引き継ぎに参加しました。それが仕事始めでした。その場にて担当がわかり、ア～ラ、ビックリ、広報の担当になりました。

この一年間は、子供の作品を出させて頂き家族揃って自治会参加の年となりました。次の年度のかたへ無事バトンタッチ出来そうなので、やれやれといったところです。皆様ありがとうございました。

【3-03-04 班長 福田 保夫】

春の香りが漂い始めました。

班長そして広報担当となり、この一年間自治会の諸行事に参加し、理事、班長の方々のご努力、ご苦労に触れ感謝の気持ちで一杯です。私も皆様のご協力を頂き何とか無事任期を終える事が出来ました。本当にありがとうございました。

今から楽しみにしている新緑の季節。木々の合間から朝日がのぞき朝日を浴びて新緑がきらきら輝き、それはそれは素晴らしい景観の中央通り、とても見事です。皆様もお楽しみに！！

【3-16-14 班長 加藤 満】

早いものでもう一年が過ぎてしまいました。何をしていたのだろうか？・・・生活に追われている、というのが実態の一年だったのですが……………

一年前に広報委員を仰せつかったのですが、この欄に「活字を寄せる資格がない」というのが正直なところ。というのは、広報委員とは名前ばかりで実態は“お荷物”だったからです。

それは、私が編集委員会もまともに出席せず、行事にもでなかった（出られなかった）事からも察しがつきます。相棒に逃げられ（先立たれて）3年が経ちました。つまり云ってみれば「“バツイチ”やめめ生活」をしていると、仕事場への通勤、家事、諸々課題の処理、などで疲れ果ててしまう。このご時世、休日の出勤など当たり前であり、委員長さんの配慮で休日に広報委員会を開いて頂いても、出席できない場合が多かったのです。ともあれ、時間切れでお役御免になってしまいますが、改めてお詫び申し上げる次第です。

しかしながら、いかに伝達手段が発達しても広報は町内会を結ぶ役割を果たす大きな手段であることを実感しました。それはやはり、広報作成までの広報委員と原稿の作成者、読者である住民の人間的な繋がりがあから外なりません。改めて、広報委員長の岡本さんに敬意を表するとともに、お詫びを申し上げる次第です。

【3-54-01 班長 永田 信夫】

他の地域に比べ白岡ニュータウンの自治会の活動は非常に活発だと思います。その中でも広報部の活動は結果を出すまでのプロセスの部分が重要で、時間を要し、労力を費やしてもなかなか思い通りに進んでくれないことが多かったようです。私の場合も文章を書くのが不得意な為、原稿を書き上げるまでの日々が辞書との戦いの歴史でした。読んでいる時には自然に流れていく言葉との関係が、ひと度文章にするという行動に移した途端に抵抗のエネルギーを発生させてしまうのです。忘れてしまった言葉や、思い出せそうで出て

こない漢字などが次から次へと表われ、ゴールは先の先へと遠ざかって行ってしまいます。しかし、苦勞して書き上げた時の安堵感は、自分に対して“お疲れさん”と呼びかけてくれているようで大きな自己満足を感じる事が出来ました。

盆踊りや防災訓練など基本的に班長全員が参加するイベントを通して感じたことは、理事の皆様の仕事量が予想以上に多いのと、経験が無いとなかなか仕事が進んで行かないことでした。理事の皆様、大変ご苦勞様でした。最後に微力ですが、地域の為に少しでも協力が出来たとなれば嬉しいことでした。

『一年間広報活動を担当して』

【広報部理事 田村 忍】

広報担当としての常なるテーマは、与えられた2つの媒体—「CATV」と「自治会だより」—を駆使して、可能な限り多くの住民に何らかの満足を感じて頂くことであります。小さな街とはいえ、老若男女、生活環境も各々多種多用、十人十色の中にあつて、各人に上記二つの媒体の双方で満足して頂くことは現実的には困難であると感じます。特に問題となるのは、「報道」と「報道以外」をどう使い分けるかです。私見では、媒体の特性から考え、「CATVは報道に特化」「自治会だよりは報道以外に特化」を基本CONCEPTとした広報活動を検討すべきではないかと考えます。

そうした観点から考えますと、まず「CATV」に関しては写真画像の多用は今後見直す必要があると思います。あまり無味乾燥な画面になってもいけませんので、アクセント程度に付加するのはよろしいのですが、1サイクルの中に何枚も画像を入れこむのは如何なものかと考えます。CATVの特性はあくまでも「即応性」であり、この特性を最も有効に生かせるのは「報道」であり、時間のない、特にワリマン層にとっては短時間に必要な情報の全体を素早く吸収できる構成が肝要です。本年度は一時的ではありましたが、Navi表示・コマ位置表示・写真画像の削減を行いました。このことが今後どのような評価を得ていくか見守っていきたいと思います。

次に「自治会だより」ですが、この媒体は「CATV」と全く異なり、盛り込める内容は格段に多く、利用時間も読者の任意です。こういった媒体に関しては、時間価値の比較的低位なOpinion記事やAmusement性の高い内容に特化してよろしいのではないかと考えます。この観点から本年度はOpinion記事、それも若い世代の提言の掲載に注力しました。また、子供作品に関しては、その部分だけでも原画に忠実に掲載できれば(原画がきれいな色刷であるのに実際の紙面は全て白黒)作品の真の表現を伝えることができるのに・・・と、編集の度に残念な気持ちを残していました。

いずれにせよ、編集する側にとっても「限られた時間の中でのボランティア活動」という制約の中で、冒頭申し上げた広報活動の究極の目的に近づけていくためにどうすればよろしいか、次年度の担当の方にこれらの課題へのさらなる取組を期待いたします。

『二年間の広報活動から』

【広報部理事 岡本 弘道】

本年度最終号「3月お花見号」、広報部当番班長のご協力を頂き編集を終えました。

“より多くの皆様に係わって頂き、より多くの皆様に読んで頂く自治会だより”そして“より多くの皆様に見て頂く2ch”を目標に試行錯誤の日々。その目標に少しでも近づくことが出来たのか……………?

二年間、自治会各行事の様子をカメラで追い続けてきました。昨年の納涼盆踊り大会、参加の方々の楽しそうな姿に引き込まれ、300枚ものシャッターを切っておりましたが、盆踊りに活躍された悠友会の皆様の“踊りの輪”の写真がデジカメになく2chに放映出来なかった苦しい思い出。

2丁目の黒澤様に「私の視点」の記事をお願いした“11月晩秋号”の発行後、即2丁目の篠田さんから「晩秋号素晴らしかった。家族全員で読みました。」との電話。又私自身退院後、腰をかばいながらパソコンに向かった1月新春号、路上で3丁目高瀬さんにお会いした際、「新春号の編集大変でしたでしょうね。」との声を掛けて頂いた。又写真を放映入力している時は、長時間テレビの画面が黒くなっています。そんな折、何度となくテレビが黒くなっていますとの電話連絡、多くの方に2chを見て頂いているのだなあとの実感と責任の重さを痛感。1丁目の石野さんから2chの写真を入れ替える度に、近所のご婦人方の話題に上がっているとの事を伝えて頂いた。この様な声の数々が広報部責任者としての心の支えとなり次への行動の原動力になりました。

“言うは安し、行うは難し”……………全くの素人からスタートした広報担当でしたが、記事原稿などで色々のご協力頂いた住民の皆様、13・14年度の広報部理事・班長さん、そして自治会役員・各班長さん、事務局渡辺・金子さんのご協力のお陰で何とか広報部理事としての任務を終えることが出来、感謝と安堵感の今、広報の仕事の複雑さ、難しさを改めて痛感しております。

しかしながら広報活動の中で、多くの方とお知り合いになれたことは、この街を終の住み家と考えている私にとって大きな恵みとなり財産となり、これを糧にこれからの生活を心豊かに送っていければと思っています。

新年度は健康上のこともあり自治会役員から離れることになりましたが、これからは一住民として「自治会だより」を読み、「2ch」を見、又自治会活動を陰ながら応援して参りたいと考えています。

“二年間ありがとうございました。”